



2025年4月1日 第866号



発行

関西学院大学新聞編集部
〒662-0891
西宮市上ヶ原一番町1番155号
HP: www.kgpress.jp
X: @KG_shinbun
Instagram: kg_newspaper_club

広島東洋カープ黒原選手の「大学時代」と「現在」に迫る



黒原選手へのインタビューの様子=2024年11月10日、広島東洋カープ大野寮、川田恵里花撮影

関西学院大学社会学部の卒業生で2024年シーズン、広島東洋カープのブルペン陣の一角として大車輪の活躍を見せたのは黒原拓未選手(25)だ。

学のことだけを語った。また高校時代の先輩の影響や関西学生野球連盟のレベルの高さから厳しい環境で揉まれながら成長したいという理由も理由の一つだった。

黒原選手はプロ3年目となる昨シーズン、主に中継ぎとして53試合に登板し、4勝3敗3ホールド、防御率2.11を記録した。特筆すべきは、奪三振率という数値で10.11を記録した。これはセ・リーグの50インニング投げた選手の中で3位になる。この数値は同じ救援投手で昨年最多セーブのR・マルティネス選手(巨人)を超える数値だ。

黒原選手は「自分はそういう(三振をとる)ピッチャーなので三振を取ることは状態が良いという一つの基準になる」と奪三振への思いを話した。

また、先発と中継ぎの両方を経験した黒原選手は調整面

黒原選手は2021年ドラフトで広島から1位指名された。指名された当時の心境を「上位で指名されればいいなと思っていたが、まさか1位で呼ばれるとは思っていなかった。びっくりした」と謙虚に話した。

黒原選手は「関西は良い大学です。しっかりと頑張る一人一人が誇れる学生になってほしい」と在学学生と新入生にエールを送った。

関学大入試 50年ぶりに入試志願者更新
Image of students at a desk

阪神・淡路大震災から30年 特別連載 Vol.1
Image of disaster site



投球する黒原選手

1986年に公開されたアメリカ合衆国の映画に『スタンド・バイ・ミー』がある。オレゴン州の小さな田舎町で、それぞれ複雑な問題を抱える家庭に育った4人の少年たちが行方不明になった死体探しの旅に出る。そのひと夏の冒険と思い出を描いた青春映画だ。旅の途中、喧嘩をし

と穏やかに思い返す。春は出会いと別れの季節。希望の道を進む人、涙を流した人、先の見えない不安に押しつぶされそうなる人。さまざまだろう。でも、自分で選んだその場所

黒原選手は「先発はスタミナの管理が必要だが、中継ぎはフルで出し切れる。力の入れ具合に違いがある」と分析した。

最後に黒原選手は「関西は良い大学です。しっかりと頑張る一人一人が誇れる学生になってほしい」と在学学生と新入生にエールを送った。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます!
神戸市営住宅・兵庫県営住宅ほか
電気設備保全会社 畑中電気合同会社
〒653-0834
兵庫県神戸市長田区川西通5丁目107番地の8

クリスマスを祝う歌声響く

関西学院聖歌隊

関西学院聖歌隊は2024年12月21日、西宮上ヶ原キャンパスのランパス記念礼拝堂で関西学院聖歌隊クリスマスコンサートを開いた。予想を超える130人以上が来場し、盛況を博した。

指揮の水野隆一氏のあいさつの後、隊員らは歌いながら入場し、パイオルガンの音色が響き渡った。第一部では賛美歌の他にウクライナ民謡や黒人霊歌、プエルトリコ民謡など国際色豊かな曲を演奏した。



賛美歌を歌う聖歌隊。2024年12月21日、西宮上ヶ原キャンパスランパス記念礼拝堂、川田恵里花撮影

商学部卒業生で柘井宏之さん(66)は「部員不足を感じる時期もあったが今年は隊員がたくさんいて良かった。自分はキリスト教徒ではないが、この気持ちが落ち着く雰囲気が好き」と話した。柘井さんは、毎年クリスマスの時期に関学大が開催するイベントに参加しているという。

第二部はゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル作曲、キリストの生涯を描いた「メサイア」の演奏で始まった。最初にパイオルガンの音が響き

渡り、合唱と独唱に会場は厳かな雰囲気包まれた。最後には会場にいる全員で「いそぎ来たれ、主にある民」を歌い、コンサートは幕を閉じた。

学生指揮者の河本理佐さん

(川田恵里花)

西成区の課題に産官学で挑む

排除ではなく社会的包摂へ

人間福祉学部は、10月から11月にわたって、「産官学連携による西成区の課題解決・魅力向上プログラム」の第2弾を開催した。

大阪市西成区の地域課題を学び、その解決に向けたアイデアや魅力創出を目的とし、西成区に本社を置く株式会社エイチ・ツー・オー商業開発と大阪市西成区役所、人間福祉学部が連携して実施した。

このプログラムには、人間福祉学部の13人の学生が参加した。学生は、西成区でのフィールドワークと関係者の説明を通じて学び、課題解決や魅力創出に関するプレゼンテーションを行った。

その中で、古くなった放置自転車にアートを施してオブジェにすることや野外図書館、ブックバスなど学生ならではの柔軟で新鮮な発想力を活かした提案がなされた。

プログラムに参加した川岸孝太朗さん(3年)は「授業で西成区について学んでいたが実際に訪れたことはなかった。フィールドワークで、人柄や町の様子を知ることができ、意識やイメージが変わった」

(商学部3年)は今回のコンサートについて、学生の隊員たちでやりたい曲を提案して構成を考えた話し「集中してやりきることができたと思う」と笑顔だった。

(川田恵里花)

たと感想を述べた。

同じプログラムに参加した三平菜桜さん(3年)は「ホームレスの方の居場所を残しつつ、どうやって支援につなげられるのかという視点で提案を考えた。居場所があることで安心感をもつことができ、生きがいなどもつなると思う」と話した。

20年以上にわたり西成区に関連する研究を行っており、プログラムの実施に携わった人間福祉学部の白波瀬達也教授は、あいりん地区を含む新今宮駅周辺のさらなる開発が進むことが予想されるなか、社会関係のなかで起る貧困や排除、差別などの根本的な理由を解決するなどしてよりbetterにしていくことである「社会的包摂」と地域活性化が連動するかどうかの見極めが重要だと指摘する。

白波瀬教授は「社会的包摂を欠いて地域活性化ばかりを進めると、地域に暮らすマイノリティの方が暮らしにくくなる可能性がある。賑わいと社会的包摂のバランスが大切だ」と社会的包摂の重要性を強調した。(今村早織)

おすすめのお店探し隊!

Vol. 38

三田で食べる

卵かけごはん

JR福知山線の相野駅から徒歩15分。駅周辺に限りなく広がる田畑の側に卵かけご飯専門店「らんまる」はある。

店長の大川和孝さん(62)が三田の養鶏場でとれる卵を活用するためにお店を始めた。店名の「らんまる」は卵を提供している卵のブランド名「元気卵丸」に由来している。

一番人気のメニューは、無料で卵をおかわりできる卵かけご飯定食だ。卵かけご飯定食には、漬物や味噌汁などがあつさりしたおかずつくAセット、そして親鶏の煮物や玉子焼きなどボリュームのあるおかずつくBセットの2種類がある。



卵かけご飯定食Bセットと平白のみ販売のだし巻き玉子。2月3日、らんまる、石岡孝憲撮影

種類がある。

「らんまる」の一番の特徴は醤油だ。「卵かけご飯は醤油で味が決まる」と考える大川さんが卵かけご飯に合うようにと趣向を凝らしており、その数は5種類にも及ぶ。

昆布やにんにくをベースにしたものなど様々な醤油と共に白米を小鉢に少しだけ移して食べると、卵かけご飯のより深い味が口いっぱい広がる。

大川さんは「どんぶりなどの新メニューを計画している。西宮上ヶ原キャンパスの学生も一度来て欲しい」と学生に向けてメッセージを送った。(石岡孝憲)

関学大入試

50年ぶりに入試志願者最多更新

全学部日程の入試が2月1日から2月7日、関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスで行われた。

今年(1)一般入試では1月出願の時点で共通テスト利用入試を含め、のべ5万4227人が志願した。これは1975年の記録を更新し過去最多になった。

関学大は近年、入学者の多様性を推進するために入学における一般入試枠を増やしており、神学部と経済学部を除く、12学部の志願者数が増加した。



全学部日程の入試会場の様子。2月1日、西宮上ヶ原キャンパスB号館、田爪翔撮影

理系全4学部も共通テスト利用入試では、前年比110%から120%の増加となっており、他の文系学部

に比べ増加率が顕著だ。新設科目である「情報」を含む共通テスト利用の8科目型入試が志願者数増加の要因だ。

文学部志望の男子生徒は「緊張していて、自信もないです」と緊張した面持ちで話した。法学部法律学科志望の男子生徒は「国公立との併願で受験しているので、緊張はないです。自信もあります」と力を込めた。(前川勇)

阪神・淡路大震災から30年

特別連載 Vol.1



大震災から変わった関学 節目でたどる変遷の歴史

震災がもたらした影響

阪神・淡路大震災は関西学院に大きな被害を与え、当時の在学生15人、教職員8人が亡くなり、同窓生も数十人が逝去した。被害総額は約10億3千万円に上った。

建物は中学位内会館と心理学研究館ハミル館が半壊、第4別館では甚大な被害、理学部研究室では出火が発生した。その他建物内部も被害が生じた。

中学部矢内会館は震災後、拡張を兼ねた修復工事を行い、現在も使われている。ハミル館、第4別館も同様に修復工事を経て今に至る。

理学部研究室があった理学部棟は2001年に理学部が神戸三田キャンパスへ移転した後、全学部共用棟として使われ、現在は2024年に竣工したJ号館となっている。

大学周辺では？

関学大の周辺では、阪急門戸厄神駅・甲東園駅間で山陽新幹線の高架橋の橋脚、門戸陸橋の崩落が発生した。そのため、関学の最寄り駅である甲東園駅へは路線の復旧中のため不通だった。

入試への影響

関学大の入試は震災から1か月後の2月1日から8日に実施された。受験生たちは2月4日まで西宮北口駅・門

戸厄神駅間、仁川駅・宝塚駅間のみ再開した今津線を利用し、門戸厄神駅、仁川駅から受験会場である西宮上ヶ原キャンパスへと向かった。

関学大は教職員と学生を道案内として駅からキャンパス間に配置や立て看板を設置し、受験生たちが安全に向かえるよう計画した。また出願できなかったり、受験できなかったりした受験生に対し3月に救済として特別入試を実施した。

震災について考える

関学大は震災後30年の時を経て建物や組織を含め大きく変わった。しかし、当時の人々が復興にかけた熱意はこれからの災害に対しての姿勢にも学ぶところがある。過去30年の意義なのかもしれない。(田爪翔)

KOBEから伝えるメッセージ

「円卓カフェ」

災害復興制度研究所は1月11日、関西学院会館レセプションホールで2025年復興・減災フォーラム「阪神・淡路大震災30年、問い直そう」私たちの被災者責任・これからの被災地責任」をテーマに全国被災地交流集会「円卓カフェ」を開催した。

「円卓カフェ」とはフランシス・バクスターの「哲学カフェ」という自由なテーマを設定し議論する場のこと。同研究所所長の山本幸氏が長年実践してきたものだ。

司会は山本幸氏が務め、解題は同研究所顧問の山中茂樹氏、岡田憲夫氏、コメンテーターは同研究所主任研究員の羅貞一氏が行った。そのほかに計10人の有識者が登壇し

た。

第一部、「被災地KOBEBEからのメッセージ 私たちが遺すべきもの」では北陸学院大学社会学部田中純一教授が能登半島の現状と課題、兵庫県震災復興研究センター出口俊一事務局長が被災者生活再建支援法の支援金に関する課題、非営利活動法人神戸まちづくり研究所野崎隆一理事長が災害被災後の議論の大切さについて講演した。元NPO法人よろず相談室理事長の牧秀一氏は震災障がい者の苦しみと教の実態把握を知る重要性を訴えた。

第一部では、「これからの被災地に向けて果たすべき役割」について話された。大阪大学大学院人間科学研究科宮

本匠准教授は、「今のボランティアに加えて地域密着などのプラスチックの考え方が大事だ」と述べた。

第三部では、聴講者による参加者への質疑応答も踏まえ、全体討論会が行われた。「なぜ災害の研究が行政に伝えられるのに政策に生かされないのか」という質問に対し、登壇者は、国の税収や力が落ちてきていることにより実現力が低くなっていることを指摘し、共助を考えることの重要性を訴えた。

羅氏は「登壇者のみなさんの活動で見えない被災者が見える被災者になってきている。災害復興制度研究所も登壇者などの活動に携わってほしい」と展望を述べた。(田爪翔)



田爪翔撮影
円卓カフェの様子11月11日、関西学院会館レセプションホール、田爪翔撮影

30年の時を経て 阪神淡路記念礼拝

関西学院は1月17日、西宮上ヶ原キャンパスのランバス記念礼拝堂で阪神・淡路大震災記念礼拝を開催した。

阪神・淡路大震災記念礼拝は震災が発生した翌年から始まり、毎年続けられてきた取り組みである。発生から30年となる今年は、対面で96人、オンラインで27人の参加者が震災で亡くなった関学大の在学生と教職員へ哀悼の意を示した。

宗教総主事の打樋啓史教授(57)は礼拝の中で「震災直後は常にお互いを気遣い、助

け合いながら生活して」と自身が被災した際の経験を交えて当時の状況について語った。

さらに、打樋教授は「時が経つにつれて、人々の中で薄れつつある命の尊さや助け合いの精神を改めて思い出してほしい」と力を込めた。

祈りの朗読に参加したヒューマン・サービス支援室学生コーディネーター(学生CO)の小西茜奈さん(文学部1年)は、礼拝に参加したことで、改めて被災者を偲ぶことができたという。(松浦颯太郎・宝本拓夢)



仁川百合野地区の地すべり災害 若い世代としてのふ試み

地域住民でつくる団体「ゆりの会」は、1月11日、仁川百合野地区地すべり資料館で阪神・淡路大震災30年の集いを開催し、地域住民など約80人が参加した。

関学大からほど近い仁川百合野地区では、阪神・淡路大震災当時、幅、長さ各100メートル、深さ15メートルの大規模な地滑りに見舞われ、地域住民34人が亡くなった。

この集いには、関西学院ハンドベルクワイア、関学ベーツホールクワイア、関西学院

聖歌隊が出演し、それぞれが阪神・淡路大震災をテーマに曲を演奏した。演奏後には、参加者から演奏や団体についての質問があるなど和やかな雰囲気での会が進んだ。

司会を務めたゆりの会の難波紀子さんは「どの団体も一つの目標に向かって取り組んでいて、グループワークが素敵だったことに嬉しかった。ゆりの会とは？」

阪神・淡路大震災で地すべりを引き起こした仁川百合野地区の地すべり対策事後、

斜面に花木の植栽及び維持管理活動を行っているボランティア団体。どなたでも参加でき、関学生など若い世代の参加も求めている。(田爪翔)



ゆりの会代表の大野さんの挨拶を聴く参加者たち11月11日、仁川百合野地区地すべり資料館、田爪翔撮影





タウンスミーティング開催 講師に玉木雄一郎氏

関西学院大学は1月27日、第3回タウンスミーティングを東京丸の内キャンパスで開催した。講師に衆議院議員で国民民主党代表の玉木雄一郎氏を迎え、「戦後70余年、変わりゆく社会の価値観や制度の疲労にどう対応するか」というテーマで行われた。

ミーティングは、まず玉木氏が自身の所属する国民民主党の基本理念や重点政策について説明することから始まった。政治の役割の基本は「文を興し、武を振い、農を励ます」という西郷隆盛の言葉に凝縮されていると述べ、「人を育てること」「国を守ること」「産業を興し、民を豊かにすること」という三つの国の役割を党の政策と関連づけながら詳しく解説した。

また、自身の政党について、「小さな勢力だが、さらに拡大し、現実的かつ具体的に日本を変えていきたい」と力を込めた。

その後、参加者との質疑応答が行われ、質問は、国民民主党の主要政策である103万の壁問題から防災・減災対策まで幅広い分野の質問がなされたが、玉木氏は一つ一つの質問に丁寧に答えた。



参加者の質問に答える国民民主党代表の玉木雄一郎氏。1月27日、東京丸の内キャンパス、越智優介撮影

多くの関学大OBが参加 アラKWAN同窓の集い 開催

同窓会本部企画委員会は2月2日、大阪市のホテル阪急レスパイヤ大阪で、「アラKWAN同窓の集い」を開催した。

今回のイベントは50代と60代の関学卒業生を対象にしており、計75人の同窓生が参加した。2000年に法学部を卒業後マシシャンとして活躍している瀧川一紀さん(47)は、オープニングでマシクショーを披露し、会場が沸いた。

マシクショーの後は食事を楽しんだ。その後、各テーブルを交えた交流会で、各テーブルの同窓生が交流を深めた。

イベントは2023年の開催から今年で3回目となった。関西学院同窓会の常任理事で企画委員長の半田まゆみさん(62)は、「関学で同じ時間を過ごしたみんながまた集まれたらいいなということ」で企画したと開催のきっかけを話した。

また今後について企画委員



タウンスミーティング参加者の様子。1月27日、東京丸の内キャンパス、田川翔撮影



乾杯の様子。2月2日、ホテル阪急レスパイヤ大阪、久保田創士撮影

NEWS ZERO

関西学院大学教授で日本テレビ系報道番組「NEWS ZERO」元キャスターの村尾信尚さん(69)は、毎年学生の国家公務員への理解を深めることを目的に、電ケ関ゼミナールを主催している。

村尾さんはかつて大蔵省の官僚として政治家とやり取りする中で、官僚のあるべき姿を憲法15条2項に見出した。憲法15条2項とは「すべて公務員は、全体の奉仕者であつて、一部の奉仕者ではない」という条文である。

官僚は全体のために働くべきと考え、村尾さんは「法律に従い厳正中立に業務を遂行しなければならない」と官僚のあるべき姿を学生たちに力

元キャスターが語る 理想の官僚像

「理想の官僚像」として、村尾さんは「将来世代に負担を先送りしないように税金を決めなければならない」と健全な国家財政のあり方を説明した。

村尾さんは「将来世代に負担を先送りしないように税金を決めなければならない」と健全な国家財政のあり方を説明した。

村尾さんは「将来世代に負担を先送りしないように税金を決めなければならない」と健全な国家財政のあり方を説明した。



国家財政の在り方を語る村尾信尚教授。2月19日、東京丸の内キャンパス、石岡孝憲撮影

関学神戸三田キャンパスから一番近い教習所

● 取得できる車種 ●

- 大型車・中型車・準中型車・普通車(AT/MT)・
- 大型二輪車(AT/MT)・普通二輪車(AT/MT)

お申込みは、大学生協サービスカウンターにて受付できます。



兵庫県公安委員会指定

三田自動車学院

三田市志手原1147-1 TEL:079-562-2995
E-mail:sas.1963@poppy.pcn.ne.jp HP:www.sas-menkyokaiden.com



三田自動車学院携帯用HP QRコード